

ワーカーズコープ 子ども子育て事業 パンフレット



「僕らは未来を生きるんだ」

子どもが育つ
私が育つ
地域で育つ
ワーカーズコープからのご提案

2018

もくじ

ごあいさつ	1
協同労働の子育ち指針	2
ワーカーズコープ子育ち事業のあゆみ 2017 年度全国事業実績（子育ち事業）	4,5
子ども子育ち事業案内	6
協同総合福祉拠点	16
子ども子育ち事業案内	18
都道府県ごと事業所数（全体）	20
子ども子育ち事業案内	21
働いている人の声	23
よい仕事を高めるために	24
識者からの期待の声	26
書籍・映画	28
フォーラムの紹介	29
ワーカーズコープとは？	30
協同労働の協同組合の原則	31
編集後記	32



ワーカーズコープセンター事業団 理事長 田中羊子

ワーカーズコープの子育ち事業は、1980年の院内保育所の運営からスタートした。4月に入園した病院職員の子どもたちが認可保育園に入ると1人、2人と去っていく。広い園庭があるのに利用できない親子がうらやましそうに通り過ぎていく。そんな中で仲間たちは、通年で見通しを持って保育にあたりたい、地域に開かれた保育園でありたいという思いを募らせていく。そして、できることから始めようと子育てサポーター講座を開き、受講生と一緒に地域子育て支援グループ「あざみ」を発足。近隣の学童クラブや商店街での子育てひろばの運営にも挑戦していく。そして2005年に念願の認可保育園（板橋こぶし保育園）の運営を受託。選定理由として、「玄人の花（社会福祉法人）の中に、素人の花がぽっと咲いたような印象だった。家庭も職場も地域も刻々と変化していく中で、固い制度や専門性に立つのではなく、目の前のニーズに柔軟に对应していくとするワーカーズコープの姿勢に期待した」と言って頂いたことが本当にうれしく、今も心に残っている。

その後、指定管理者制度の導入と共に「子育ての市民化・社会化」を理念に掲げるワーカーズコープへの共感が広がり、学童保育や児童館の運営が全国に大きく広がっていく。「協同労働の子育てとは何か」の問いを正面に据えて格闘する日々。制度から子どもや親をみるのではなく、ありのままを受け止め、その必要や願いを共に実現していきたい…。この子育てパンフレットには、こうした思いから生まれた全国の実践がいっぱいつまっている。障がいをもつ子どもたちの放課後の居場所づくり、保護者同士のつながりをつくる寄り道カフェ、こども食堂の広がり、地域先生の掘りおこしと農業体験や木育の取り組み。

そして今、多くの現場で、ひきこもりの若者や働くことに社会的困難を抱える人たちが、子どもたちにその力を引き出され、生きる自信を回復していく場となっている。

教育学者の大田堯先生は「教育とは、命というただひとつのユニークな種が自ら花開いていくのを助ける役割。だから違いを大事にすることは命を大事にすることそのもの」と言われる。そして、この命の本質に沿って子育てを深めるという営みは、「違いを認め合い、互いの力を生かし合う」という協同労働の働き方の核心を深めることにつながっている。

今、協同労働の協同組合が法制化されようとしている。3人寄れば、届出だけでワーカーズコープをつくり、地域に必要な仕事を自分たちの手でつくりだせる時代が、すぐそこに来ている。すでに「子どもが卒園しても楽しみに通えるワーカーズコープの学童保育をつくりたい。」「一時保育を、親たちの手で立ち上げたい。」「孤立死が続く団地に、多世代の居場所をつくりたい。」「放課後等デイの卒業後の子どもたちが輝ける、働く場をつくりたい。」という親や住民の願いがたくさんよせられている。そんな1人ひとりの声を大切に聞き取り、地域の中で重ね合わせ力を合わせて実らせていきたい。社会の壁の前に1人では諦めてしまうことも、「みんなとならできるかもしれない」という自分と他者への信頼と希望を生み出していく。そんな新しい社会づくりにつながる協同労働の子育ちを、市民みんなの力で発展させたいと心から願っている。

協同労働の子育ち指針

子どもたちは未来そのものです。子どもたちが大切にされない社会に未来や希望はありません。今、私たちが暮らす日本社会はどうなっているのでしょうか。子どもの貧困率が13.9%（2015年時点）にも達し、7人に1人の子どもが何らかの貧困状態にあえいでいます。また、急速な核家族化や地域のつながりの希薄化、社会的孤立の広がりによる孤独や心の病も広がっています。塾に行くのは当たり前など受験競争もますます激しくなり、人を能力の有る無しで見てしまう考え方や、自己責任を強調するあまり「たすけて」という言葉さえ素直に言い出せない空気も広がっています。

私たちワーカーズコープは、「共に生き、共に働く社会の創造」を合言葉にすべての子どもの命や人権が大切にされる協同の社会づくりを目指してきました。

この指針は、全国の実践やこれまでの協同労働運動の到達点をまとめたものでもあります。協同労働の子育ちとは何かという問いをみんなで深め、協同労働の「よい仕事」をより一層高めていきましょう。

1. 協同労働は「命」「自然」「働く」「暮らす」をベースに「共に生き」「共に育ちあう」社会を目指します

そのために

1. 1人1人の子どもの違いや個性を尊重します
2. 子どもの持つ力を信じ、育てます
3. 子どもたちの命をはぐくむ自然、人、文化など豊かな社会関係をつくり出します

2. 協同労働の子育ち5つの指針

①命の基礎である自然や食、地域の文化、人と人との関係を大切にします

- ・子どもの心と体をつくる食、自然体験を重視します
- ・地域や日本の暮らしの中にあつた伝統行事や文化を継承し、大切にします
- ・人と人との関係の基礎となる豊かな「あそび」を共に創り出します

②当事者主体と豊かな人間関係を広げます

- ・主人公は子ども。子どもの想いと自主性を中心に置き、組合員は子どもから学ぶ姿勢を大切にします
- ・子どもたちがゆったりした時間とたっぷりした経験を持てる居場所づくりをすすめます
- ・子どもを通じた親育ちを重視し取り組みを進めます
- ・子ども、親、地域との協同の関係づくりを広げます
- ・子どもたちが安心して失敗できる場と関係性をつくりだします



③子どもの願いや課題を真ん中にすえた、 生活まごとの仕事おこし・まちづくりをすすめます

- ・子どものSOSをキャッチできるアンテナを高めます
- ・子ども、親の願いや困難に向き合い、まごとの仕事おこし、まちづくりに挑戦します
- ・地域の市民や行政とも協同した、社会連帯のまちづくりを広げます

④よい仕事を生み出す協同労働の団づくりを大切にします

- ・7つの原則に基づく団づくり、自由な発言と人の意見をしっかり受け止めることができる関係づくりを基本とします
- ・悩んだときは「まずはやってみる」という実践する姿勢を大切にします
- ・学習、研修など学びあいの時間と文化を生み出します
- ・全国の仲間との連帯・学び合いを大切にします
- ・社会連帯経営による経営の連帯性や主体性を高め、健全経営を守ります

⑤子どもの命を守り育む平和、基本的人権、民主主義、自然環境文化など 人類が幾多の苦難を経て築いてきた貴重な財産を大切に継承します

- ・平和の基礎となる、相手を思いやる心を育て、能力や国籍、性別などによる差別、偏見をなくす取り組みを広げていきます
- ・子どもの人権や民主主義について日ごろからアンテナを高くはり、話し合いや学習をします。またそれらを守り発展させる運動に積極的に関わります
- ・世界の子どもたちの現状や文化を知り、交流を広げます
- ・持続可能な社会づくりに貢献します

ワーカーズコープ子育て事業のあゆみ (抜粋)

1980 年 東京都老人医療センター内院内保育室
ひまわり保育園

2001 年 渋谷区東京都児童会館「のびのびひろば」

2002 年 学童クラブ板橋第一小学童クラブ（現板
一小あいキッズ）／鹿児島・奄美地域福祉
事業所「がじゅまる」／商店街の中に、子
育てのひろば「どんぐりのおうち」

2003 年 足立商店街活性化のための「青井わくわ
くクラブ」

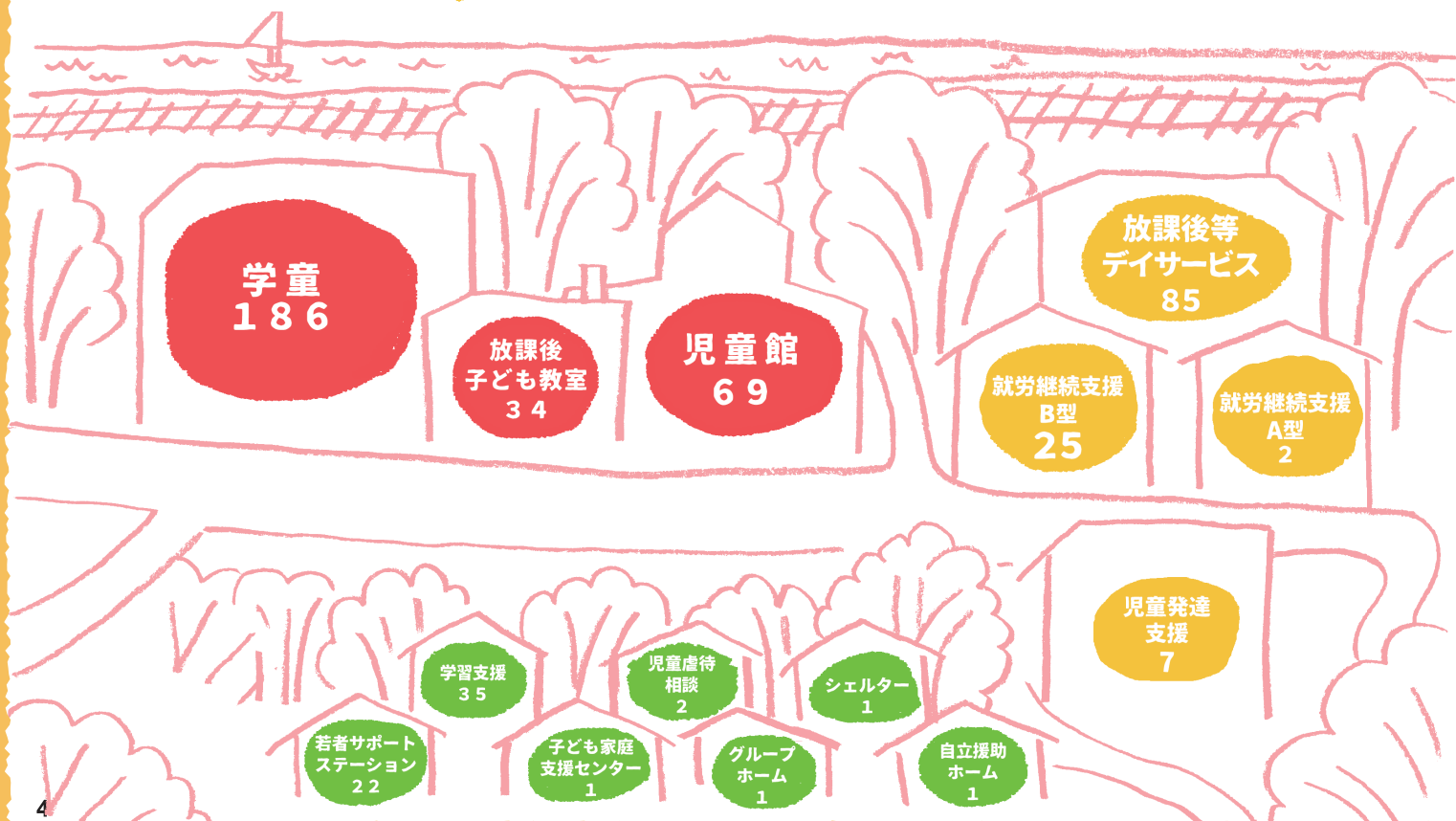
2004 年 児童館新宿早稲田南町こども館（現児童
館）、榎町児童センター（現在は学童クラ
ブと一時保育のみ）／足立区 子育てホー
ムサポート事業

2005 年 認可保育園 板橋こぶし保育園／栃木県
大田原市児童デイサービス（現放課後等
デイ）「ぴのきお」※のちにこども館くれよん
に改称（一時保育、学童、児童発達支援事業、
病後児保育）／厚生労働省より芝山若者自
立塾開講（2010 年 3 月まで）

2007 年 放課後子ども教室港区「放課GO→」（港
陽小他 1 か所、現在全 2 か所）／待機児童
解消のための暫定保育室港区立東麻布保
育室／新潟県、宮城県で若者サポース
テーション

2008 年 江東区認証保育所（東京都独自の制度）
亀戸のびっこ保育園／港区総合支援施設
Pokke（子育てひろば、一時保育、トワイ
ライトステイ、ショートステイ）

2018 年度 全国事業実績（子育て関連事業）



2009 年 長野県上田市で市内 22 カ所の児童クラブ

2010 年 佐倉市ファミリーサポートセンター

2011 年 葛飾区子育てひろば「いろは」・親子カフェ「アリス」／栃木県矢板市 廃校を活用した放課後等デイりんごの木

2012 年 立川市子ども未来センター（一時預かり、子育て広場、子育て地域啓発事業）
熊本市学習支援事業 熊本出張所

2013 年 岩手県滝沢市放課後等デイおおぞら

2014 年 なでしこ保育園（現在は小規模保育室 B 型）

2015 年 共生型施設太白だんだん内で小規模保育室（B 型）／福岡市子ども家庭支援センター 見守り訪問（泣き声通告）

2016 年 仙台市自主学童「レインボーハウス」
自立援助ホーム「オーレの家」

2017 年 浦安市 企業主導型保育事業

2018 年 君津市 森林体験交流センター／新潟市 寺山公園子育て交流施設い〜てらす
豊島区 子ども若者総合相談事業
江東区青少年相談事業「こうとうゆうすてっぷ」



子ども子育て事業紹介



あー ここ
みんなのにおいがするー
あったかいにおいがするー

地域と歩む保育園

板橋区立こぶし保育園

東京都板橋区 / 主に乳幼児

みんなが育つ・みんなで育つ・地域で育てる



こぶし保育園は公設民営の保育園です。「みんなが育つ・みんなで育つ・地域で育てる」を理念に運営しています。地域の方々に、子どもたちが地域で育つことを大事にしていきたいこと、ともに子どもたちの育ちを支えてほしいことを伝え、賛同を得て「地域先生」として保育園を応援して下さいます。

赤くなったトマト、おいしいね

広い畑で自然に触れる機会をもらい、「虫

見つけたよ」「大根抜けないよ」「赤くなったトマト、とってもいいよ。おいしいね」と興味、関心を持ち感性が養われています。町内会長をしている和太鼓の先生が直接指導にきて下さったり、老人会の方々とゴミ拾いをするなど、地域の皆さんに可愛がられています。保育園だけでは得られない貴重な体験により心も体も元気に豊かに育っています。卒園した子どもたちにも「こぶしっ子」として夏祭り・運動会の手伝いに来てもらい、成長を目にする機会も楽しみです。

(所長 三井貴子)

自然に恵まれた奄美だから

結の島地域福祉事業所 森の家くっかる

鹿児島県奄美市 / 主に乳幼児

自然の中で過ごして欲しい

森の家『くっかる』は2009年10月に無認可保育所・学童保育・生活総合支援などの複合事業所として開所しました。『自然に恵まれた奄美だから、自然の中で

子どもに過ごして欲しい』という思いから、郊外の古民家を借りました。

奄美初の病児病後保育施設

開所当時、奄美(奄美群島も含め)には病氣中やその回復中の子どもを預かる『病児保育』『病後児保育』を行う施設が

1カ所もありませんでした。そこで訪問による病児保育事業を開始し当面の困りごとに対応するとともに、病児保育施設の早期開設の嘆願署名を集めました。そして活動から2年半後、奄美市や奄美医療生活協同組合の尽力もあり、同組合が運営する奄美中央病院に病児保育・病後児保育施設が設置されたのです。

初年度に預かった5歳の子どもは中学生になりました。成長し大きくなっても生きづらさや困りごとを感じた時に「居場所」になれる事業所でありたいと思っています。

(所長 越間聡美)



介護から保育へ

保育所ぶどうの樹事業所

愛媛県松山市 / 主に乳幼児

ともに育ち、ともに生きる

保育所ぶどうの樹は、愛媛県松山市にある定員30名の認可保育所です。住宅地がありますが、周りには田んぼや畑などの自然がまだ残っています。

2004年、介護事業所の託児所としてスタートしました。アットホームで子ども1人ひとりを大切にする保育が評判となりました。保護者の口コミが広がり地域保育所から認可保育所となりました。

私たちは「ともに育ち、ともに生きる。みんなで助け合い、育ち合う保育園」を理念にしています。歩育・食育・親育を柱に、子どもが主人公となる保育を実施しています。

「やらされる」ではなく「やりたい」

夏には、1泊2日の日程で離島にお泊り保育を実施。離島の住民・卒園児とその保護者

の協力を得ながら行っています。保育所ぶどうの樹の年長児にとっては成長できる行事の一つとなっています。

1年間を通して、さまざまな行事がありますが、子どもたちにとって「やらされる」行事ではなく「やりたい」行事に取り組んでいます。

(園長 天白智子)





から揚げと生きた鶏は違う肉？

国分地域福祉事業所ほのぼのでは、「食育」をととても大切にしています。

当時2年生の男の子が鶏のから揚げと生きた鶏の肉は違う肉だと思っているのを知り、近所の農家の方と保護者の協力を得、子どもたちが育てていた鶏をさばいて食す実践

をしてみました。子どもたちは当初気が進まない様子でしたが、鶏の羽をむしり、肉を切り、内臓をみて「これは何？」と部位名を聞いて最後には「こいつが生きてた証だ！」と言って爪の部分をもらっていました。途中「かわいそうだあー」と泣いていた子も、しっかりと食べて全員で「ごちそうさま」が言えました。

こいつが生きていた証だ！

国分地域福祉事業所ほのぼの

鹿児島県霧島市 / 小・中・高生

命や人に感謝して食べる

子どもたちの感想には「私たちは毎日たくさんさんの生き物を食べて成長している。これからは色々な命や色々な人に感謝して食べたいと思う」とありました。

ほのぼのでは子どもたちと野菜や米を育てています。農家の方の大変さや、機械がない時代はみんなで助けあって働いたということも同時に学んでいます。

(所長 岡元ルミ子)



寄り道カフェ、はじめました

浦安地域福祉事業所 明海小学校地区児童育成クラブ

千葉県浦安市 / 小・中・高生

子育ての悩みを話し合い

学童クラブは、子どもの支援の場でもあり、保護者支援も大きな役割のひとつです。一人の保護者から「家と会社の往復で、気軽に話せる友達がいない。子育ての悩みを打ち明けるところがない。」と聞き、「寄り道カフェ」を始めました。お迎えの時間に、お茶を飲みながら他の保護者とコミュニケーション

ンがとれる気軽さからたくさんの保護者が訪れるようになりました。一人の保護者の悩みは、みんなの悩みだと知りました。

子ども食堂から地域食堂へ

「子どもと二人だけで食事をするのが多い。大勢でにぎやかに夕飯を食べたい」とのご意見があり、カフェで夕飯を提供すること

に。それが多い時には200人の方が訪れる「子ども食堂」となり、今では、クラブの利用者以外にも訪れる「地域食堂」に。スタート当初は、スタッフが、買い物、調理などすべて行っていたのですが、今では、保護者の方が腕をふるってくださっています。子どもから大人まで、人と人とが繋がる場にしていきたいです。

(副所長 橘高由美)

子ども・保護者の願いを受けとめて

草津地域福祉事業所みんなの家

滋賀県草津市 / 小・中・高生

子育て世代が急増

草津地域福祉事業所では公設民営4箇所、民設民営2ヶ所の学童クラブを運営しています。草津市は京都や滋賀のベッドタウンとして子育て世代が急増している地域です。草津市の指定管理者制度が始まった2006年に公設民営学童クラブ「のびっこ笠縫」を受託。その後2009年にさらに3箇所を受託しました。それでも学童クラブの設置が追いつかず、困っていた保護者の声を聞き、民設民営の学童クラブ「にこに子」「第2にこに子」を開

所しました。現在6か所の学童クラブは全て定員いっぱいです。

高齢者とも交流

私たちは地域と子どもたちの交流をととても大切にしています。ハロウィンで商店街を練り歩きお菓子をもらってきたり、認知症サポーター養成講座を受けて、福祉施設訪問で高齢者と交流しています。事業所主催の困窮を生ま

ない地域づくりフォーラムではオープニングで手話付歌を歌ったり、6学童交流の真冬の運動会を開いた折には保護者も参加してくれました。(所長 田中紀代子)



自然と遊ぶ・感じる・あじわう

宮城県仙台市 / 小・中・高生

仙台けやきの杜地域福祉事業所

生きるための知恵を楽しむ

「自然と遊ぶ・感じる・あじわう」をテーマに、大自然の中で五感で楽しむことを目的とした自然体験活動プログラムを、登米市鱒淵地区と連携し、年間3回行っています。

協力してくれた鱒淵地区は、今にも山に飲み込まれてしまいそうな程の自然が目の前に広がっているところ。そこでの様々な自然体験や、地域に住もう方が大事にしてきた「生きるための知恵」をどのように「遊び」として楽しむか。仕掛ける大人もワクワクしました。子どもたちを「管理する」ではなく寄り

添うということ、「安心安全を守ること」を第一に取り組みました。

ありのままの自分の感情を表現

子どもたちは自然の中でありのままの自分の感情を自由に表現していました。また、たくさんの人たちとの関わりの中で、自己肯定感や生きる力を育む機会となったと思います。

この取り組みは回を重ねるごとに協力者が増え、大人も子どもも「幸せな顔」をしていることが嬉しいです。（所長 瀬戸理音）



仙台けやきの杜

旭川

松本

子ども食堂からおとな食堂へ

北海道旭川市 / 小・中・高生

旭川地域福祉事業所

子ども食堂立ち上げ

旭川地域福祉事業所は、2015年4月から旭川市児童センター6館の指定管理業務を開始しました。「食事は1日1食、給食だけ」というA君に出会い、地域の方と一緒に2015年11月「こども食堂」を立ち上げました。

私たちは、こども食堂だけでなく子どもたちの困難も含め、幅広くこの活動を知って欲しいと積極的に発信を継続しました。そこから出会った地域の方とともに①子ども食堂

への寄付金や食材のシェア②困難を抱える親や子どもたちへの支援方法の共有や学ぶ場③居場所づくりをしたいと一歩踏み出そうとする人たちへのサポート等を目的とし、中間支援を行う機関として2016年5月に市民活動組織『旭川おとな食堂』も立ち上げました。

おとな食堂立ち上げへ

こども食堂を立ち上げるきっかけとなったA君がある事件を起こし自宅にも帰れず、「義務教育修了後の住まい」に課題を抱えるケースがあることを知り、おとな食堂メン



バーと自立援助ホームの立ち上げに向かっていくところです。

（エリアマネージャー 今井一貴）

生きる力をつけていく子どもたち

松本事業所

小さな失敗体験から生きる力へ

松本事業所では児童館、学童保育、託児事業、地域の子どもの居場所事業、子ども食堂、フードバンク信州の松本拠点事業などを実施しています。放課後の子どもたちの様子から浮かび上がった課題から、自主事業として学習支援・体験教室を増やしています。小さな失敗体験を増やすことで生きる力をつけていく子どもたち。学校に行けなくても学習支援で高校受験に合格する子。地域の人たちと食卓を囲むことで団らんを知り、自分たちで包丁を持って弁当作りをする子。将来の夢

に向かってサッカーや卓球に夢中になる子。どんな子どもたちもプロやセミプロ・地域の達人たちが協力者になり、支えてくれています。

木育一山で自然と触れ合う

また、地域に児童館はあるけれどそこにいけない子どもたちの居場所として「なみカフェ」をつくりました。そして「木育」の取り組みでは子どもたちが自然と触れ合う度にたくましくなっています。

また子ども食堂（はっぱい食堂）の取り

組みは児童健全育成推進財団の遊びのマニュアルのマニュアルに取り上げられました。（所長 伊藤由紀子）



長野県松本市 / 小・中・高生

安心して『自分らしく』

北海道苫小牧市 / 障がい児

日胆まちづくり地域福祉事業所 放課後等デイサービス ぼっけ

人対人として。

私たちは「どんな人でも尊厳を持って暮らし続けられる地域づくり」を理念に、放課後等デイサービスに留まらず社会連帯活動に積極的に取り組んでいます。

職員は「先生じゃなくていい。子どもたちが信頼できる身近な大人のひとりになるう」「子どもたちが安心して自分らしく居られる場のひとつになるう」「組合員も子どもも、ぼっけを地域に育ててもらうために、どんどん地域に出よう」ということを価値観の土台にして、自分たちも思い切り楽しむことを大切にしています。

支援する側とされる側ではなく、大人と子どもでもなく、主体性を引き出しながら、人対人としてとことん向き合っていきます。

ここには自分を守ってくれる人が居る

ぼっけでは、子ども同士のトラブルは全て未然に防ぐのではなく、学びのチャンスととらえています。「ここには自分を守ってくれる人が居る」という安心があるだけで、子どもたちは劇的に変化していくということをぼっけの子どもたち

が教えてくれます。
(副所長 松崎愛)



兄弟・姉妹でくれよんへ

栃木県那須塩原市 / 障がい児

西那須野地域福祉事業所 こども館くれよん

お迎えが1ヶ所で楽になった

こども館くれよんでは、放課後等デイサービス・放課後児童クラブ・小規模保育・一時保育を1つの建物の中で複合的にを行っています。

障がい児の保護者が抱えていた悩みは、兄弟のお迎え。「障がい児の兄には弟がいる。弟は公設の学童保育や保育園へ通っていていつもお迎えが大変だった。こども館くれよんが出来てからはお迎えが1カ所で済み楽になった。」こども館くれよん

にはこんな兄弟・姉妹で通っている子どもたちが沢山います。

悩みをたらい回しにしない

また、小規模保育に通っていたAちゃんはお母さんにとって育てづらい子と受け止められていました。このお母さんの悩みは職員で共有され放課後等デイサービスの職員からアドバイスをしました。子育てをする中での母親の悩みをたらい回しにせず解決できることは子育ての総合支援を目指しているこども館くれよんならではと感じます。

(エリアマネージャー 小白井加代子)



ゆったり空間とたっぷりの経験

沖縄県那覇市 / 障がい児

那覇地域福祉事業所かふう

子ども主体の居場所づくり

那覇地域福祉事業所かふうでは、放課後等デイサービス2か所、児童クラブ1か所の運営を行っています。私たちは「ゆったり空間とたっぷりの経験」を理念に掲げ、子どもたちが主体となって居場所を創造できるよう日々の活動の中に学びを取り入れています。「子どもとおとなの為の会議」では、1年に4回の宿泊体験、工場見学や町探検、海水浴や映画館等の課外活動、プランター栽培や地域の収穫祭への参加、調理体験での食育など、多くの経験と体験、そして学びの場

を子どもたちと一緒に作っています。

夢実現へのお手伝い

保護者会では、子どもたちが保護者に対して自分たちが今後挑戦してみたいことをプレゼンテーションする機会を作っています。現在、放課後等デイサービスでは、こどもたちの夢の一つであった修学旅行IN東京の開催が決定、子どもたち、保護者、そして私たちの計画もスタートしています。こどもたちの夢を実現するお手伝いができ、喜びを感じています。
(津波古彩乃)



ミニトマトって まえならえしているみたいだね

(二年生女の子)



手作りの衣装で

東京都大田区 / 小・中・高生

ほんかまた u-me 矢口東放課後ひろば

保護者や地域で共に歩む

矢口東放課後ひろばは、東京都大田区にある小学校内で、学童保育と放課後子ども教室の2つの事業を一体的に行っています。

学校内の施設ではありますが、保護者や地域と共に歩んでいくことを目標に運営をしています。保護者参加の夏祭りや子どもも参加する体験型保護者会など、活動に保護者を巻き込んでいます。地域の子どもの会のお祭りにブースを出すなど、地域の方と触れ合う活動も積極的に行っています。

地域と共に育つ子どもたち

10月に行なった仮装パレード。子どもたちが手作りの衣装で地域の方と交流しまし



た。子ども食堂もしている八百屋さん、いっもおやつを買っている和菓子屋さん、花屋さんにも行きました。最後は学校のすぐ近くにある介護老人保健施設を訪問し、施設の利用者さんと触れ合いました。102歳の利用者の方に感謝の言葉をいただき、子どもたちが地域と共に育っていく一助になった活動でした。

(副所長 佐久間貴志)

進学しても またおいで

熊本県熊本市 / 学習支援

熊本出張所

信頼できる仲間と成長していく

2012年10月から現在まで、熊本市より学習支援事業を受託しています。対象は中学生。家庭が心安らぐ場所でないケースが多く、家族に対する不満を漏らす子もいます。彼らにとって信頼できる大人や仲間の存在は大きく、スタッフやともに学ぶ仲間との信頼関係の構築こそが彼らの未来に影響を与えていると感じます。学校や家庭以外にも安心できる居場所ができることで、将来の夢を語り合い、他を思い合い、互いに成長していくことができるのです。

未来まで生き抜くための 拠り所

特筆したいのは、進学した生徒がボランティアとして参加してくれていること。現役の中学生はもちろん、進学した子どもたちにとっても居場所として機能し、拠り所になっています。

学習支援事業で大切にしたいのは、信頼関係を土台にした子どもたちにとっての居場所をどう作るかという点。学力もさることながら、進学後や就職後、そのまた未来まで生き抜くための拠り所となると信じています。

(山下潤)



ママたち、いらっしゃい！

葛飾地域福祉事業所ミモザ樹
こそだてひろば「りぼん」
新小岩保育室「結」

東京都葛飾区 / 主に乳幼児

地域が遊びのフィールド

こそだてひろば「りぼん」・新小岩保育室「結」は、新小岩北集い交流館の1階にあります。一つのスペースの中に、子育てひろばと保育室が同居し、ひろばの利用者と保育室の子どもたちが自然な形で交流しています。

天気の良い日は近隣の公園にお散歩に出かけ、地域の方とのふれあいを楽しんでいます。

す。子どもたちにとって、地域が遊びのフィールドです。10月には近隣商店街でのハロウィンパレードが行われ、親子で一緒に参加します。

ママたちの集いの場へ

また、りぼんでは、身近な地域での居場所を求めて集まる中、それぞれの共通点を見

つけつつ仲間づくりをしたい、という発信が多くなってきました。北海道、関西等、同郷のママの集い、浴衣好きママや新小岩出身のママたちの集い等、一つのきっかけから仲間づくりにつなげていき、仲良くなったママたちと気軽に遊びに来られる居場所になってきていると感じます。

(所長 内藤郁代)



「今日は車が少ないね～」

みなと子育て応援プラザ Pokke は、港区に 2008 年 10 月に開設され、子育てひろば・一時あずかり保育・トワイライトステイ・

いつでも『助けて』と言える場所に

みなと子育て応援プラザ Pokke

東京都港区 / 主に乳幼児

ショートステイの 4 事業を「地域の方々とともに育んでいくこと」をコンセプトに、運営しています。

お散歩に出掛けた時のこと。2 人で手を繋ぐことが嬉しくてお友だちの手を握り返したり、お友だちと歩くタイミングを合わせて歩く子どもたち。「今日は車が少ないね～」と、日曜日で静かな事を感じ取っていた子どもたちの姿が印象的でした。子どもの育ちを大切に受け止め、自然や社会に興味関心を示す機会を大切にしています。

お母さん、お父さんにも心地よい空間

子育てひろばではママやパパが箱についている紐を引っ張り、子どもたちはその中に入って遊ぶ電車ごっこが大好きです。「赤ちゃんやお母さんが穏やかに心地よくいられる空間」「お父さんが居心地の良い空間」「いつでも助けてといえる場所」として実家のような雰囲気大切にしています。

(所長 上田洋子)



1 か月のサポート件数は 300 件

佐倉市ファミリーサポートセンター

千葉県佐倉市 / 主に乳幼児

子育ての助け合いをマッチングする

佐倉市ファミリーサポートセンターでは、市民が提供会員・依頼会員として登録し、子育てにおいて手助けして欲しいことを援助する「有償ボランティア」(相互援助活動)のコーディネートやマッチングを行っています。1 か月のサポート件数は 300 件を超え、学校のお迎えや家庭での見守りの依頼があります。また、共働きの家庭はもちろん、母子・父子家庭や外国人の家族のサポートも増え続けています。

支えあいの地域を作っていく

ファミサポの活動時間は 6:00 から 22:00 ですが、「ママが入院してしまったため泊りがけで預かってほしい」といった依頼も増えてきています。増え続ける様々なニーズに対して、ファミサポだけでは支えきれないとも感じています。もっと子育てを地域全体で関心を持つこと、その為にもっと地域の子育ての現状を投げかけていくこと、私たちが大切にしている協同労働という働き方、仕組みで、支えあいの地域をつくっていくことが必要だと感じています。

(郡司紀子)

いちはやく

189 行きます

豊中地域福祉事業所

大阪府豊中市 / 安全確認

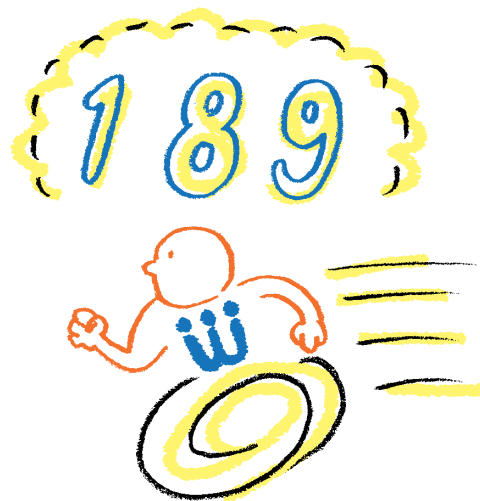
48 時間以内に訪問する

豊中地域福祉事業所では、2016 年から大阪府の泣き声通告にかかる児童の安全確認業務を担っています。大阪府は地域からの泣き声通告が全国で一番多く、その泣き声情報が寄せられると、私たち訪問員が行政職員に変わって 48 時間以内にそのご家庭に訪問を行います。訪問員は虐待を疑いながら訪問するのではなく、子どもが泣いていた時の状況を聞き取りながら、本当に子どもが安全にすごしているか等を確認しています。

保護者の心に寄り添う

訪問先のご家庭には事前連絡なしで突然訪問しなければならず、そのことへの不安感がありますが、訪問することで子育てに悩んでいる保護者の心に寄りそえることにやりがいを感じています。私たちの訪問により、少しでも気持ちを吐露されたり、必要に応じて相談機関や地域の中にある居場所に繋がったりすることで、虐待予防になればと思いながら日々取り組んでいます。子どもたちが安心して暮らせる地域を目指していきたいです。

(所長 山本宏子)



心配しています 応援しています

福岡県福岡市 / 安全確認

福岡市子育て見守り（スマイル）訪問員派遣事業 九州沖縄事業本部

「泣き声通告」の急増！

福岡市では2009年度に6名の子どもが虐待で亡くなり、翌年大阪市で幼児2名の死亡事故が発生したことから、市民からの「泣き声通告」が急増しました。児童相談所での対応件数が数年で5倍となり、2012年7月から事業をスタートしました。

「何か困っていませんか？」

平日夜間（18:00～8:30）及び土日祝日、福岡市子ども総合相談センター（児童相談所）に市民から寄せられる「泣き声通告」を基に

家庭を訪問し、子どもの安全を確認すると共に子育て相談や情報提供を行います。家庭・病院・幼稚園等から児童相談所・乳児院へと子どもを移送することもあります。

実際民間NPOスタッフが「心配しています」「応援しています」「困ったことはない

ですか」と訪問することが少しずつ市民に浸透して「今日はたくさん泣いたから来るんじゃないかって思っていました！」と言われることも増えてきました。

（子育てアドバイザー 山口祐二）



『失敗できる』が生き抜く力に

群馬県高崎市 / 社会的養護

高崎地域福祉事業所 自立援助ホーム「オーレの家」

安心して失敗できる

自立援助ホームは、児童福祉法に基づく施設です。15～20歳（大学進学する方については22歳の年度末まで）の利用が可能です。

ホームに来る子どもの多くは虐待などの困難な状況に置かれています。他者への不信感から、社会に出て人間関係を構築していくことが苦手です。

彼らにとって在りのままの自分を受けとめてくれる大人に出会うことがとても大切です。安心して失敗できる（失敗しても受けとめ励ましてくれる人がいるという安心感）が

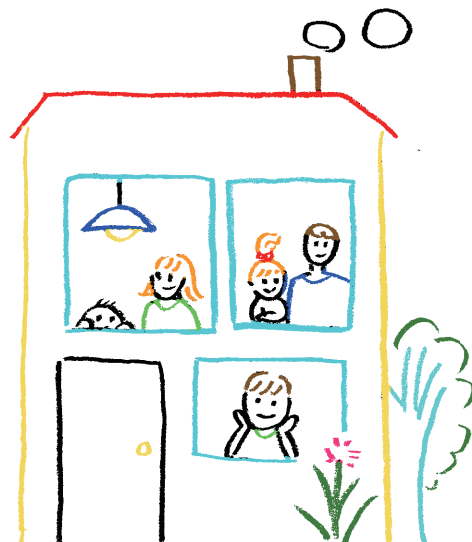
社会を生き抜く力となるのです。

誰かに助けを求められるように

オーレの家では、「自立」を「子どもたちが何でも一人でできるようになること」とは捉えていません。「自分でやろうという意欲をもちながら、人に助けを求めていけるようになること」と考えます。大人は彼らの成長を信じて待ちます。

既に自立していった子どもたちのふるさとなりつつあるこのホームを長く続けていきたいと職員一同が思っています。

（所長 宮東直弘）



地域みんなで支え合う

東京都足立区 / 主に乳幼児

AKALAnishiarai 事業所

サロン、学童と連携して家庭を応援しています。

DVから逃れてきた母子、親子ともに障がいがある、経済的に困窮している等の困難を抱えた家庭に寄り添い、行政手続きの同行や専門機関へつなぐだけでなく、社会連帯企画でシングル家庭の居場所づくりを目的に『ゆる育児応援隊』が始まりました。

支え合う仲間として

食のイベントを行った際には、外国籍の

ママの母国料理の披露もあり、ママたちが主体となり準備から活動が行われました。社会的貧困の解決にむけ、困難を抱えた家庭を支援対象者ではなく、共に地域で生き支えあう仲間として増やしていきたいと思います。私たちが会おう子どもやその保護者を取り巻く環境はとても厳しいです。今後は「子ども版包括支援センター」の機能を持った地域皆が集える居場所づくりを目指していきます。

（所長 中村央）



困難を抱えた家庭に寄り添う

AKALAnishiarai 地域福祉事業所では、70名の市民サポーターによる家庭訪問型のあずかり（ホームサポート）事業を軸に、子育て

若者も育つ保育園

渋谷わかば 笹幡保育室

東京都渋谷区 / 保育室

子ども 51 人、職員 24 人。

笹幡保育室は待機児解消のためにつくられた暫定園です。認可園に入れない子どもがきています。保護者が希望している認可園が空くと年度途中でも転園します。0 歳～3 歳の子どもたち 51 名と 24 名の職員がいます。

私たち職員は定期的に学習会をしています。保育観を一致させたい、自分たちの保育の質をあげたい願いからです。「最近入所した K 君は、友だちと遊んでいる時も普段の生活でも、自分から余り話をしない」と担任。

K 君ママの耳に障害があるということで皆心配しています。早速職員が集まり話し合い、「みんなで声かけしていこう」と決めました。それから 2 週間が過ぎた頃、K 君に変化がありました。笑顔が多くなり積極的に話し、友だちとも楽しそうに話をしています。

サポステの若者も元気に

また、世田谷地域若者サポートステーションの若者 5 名が日替わりで用務業務に入っ



てくれ、子どもたちから人気です。若者も元氣になって「保育士になりたい」と主体的です。

(所長 大石英子)

ここに来ればほっとする！

大野城事業所 みんなの居場所 ほっとのたね

福岡県大野城市 / 小・中・高

地域の安心拠点として

大野城事業所では、放課後等デイサービスと大野城市寺子屋連携教育事業（学習支援事業）の運営を行っています。大野城市では不登校児童が多いこと、不登校になった後の教育機会が確保されていないことが課題です。そこで他の NPO や自治会、民生委員とともにこの問題について検討を重ねてきました。そして学習支援や不登校相談だけでなく、虐待防止やシングルマザー支援、地域の居場所、安心拠点となるような場「みんなの居場所 ほっとのたね」を開設しました。

引きこもっている若者の大きな変化

約 2 年ひきこもっていた若者がほっとのたねにやってきました。庭の整備や、畑を耕したりと様々な体験をしてもらう中で、びっくりするほど話をしてくれるようになりました。その変化に私たちも驚くと同時に、力を持っているにも関わらず発揮する機会もなくひきこもっている子どもや若者がいる現実を目の当たりにしました。その力が発揮できるような地域や社会をつくっていくことが私たちの使命です。

(所長 金山ふみ)

地域の小さなネットワークが若者の力に

せたがや若者サポートステーション

東京都世田谷区 / 若者

社会に対する恐怖を抱く若者たち

サポステは概ね 40 歳までの若者の「働くこと」「働くまで」を応援していく場です。悩みは人ひとり違います。しかし、「社会に対する恐怖」を抱いている点は共通しています。世の中には何か「基準」があり、その「基準」に自分は当てはまらないと思い「こんな自分なんて受け入れられない」「排除される」と話します。だから私たちは、「案外社会には良い人もいる、見捨てたもんじゃない」と思える

ような存在に出会うきっかけを創ることに力を入れています。

「困難な若者」ではなく、「一人の人間」として

事業所の徒歩 5 分圏内に若者を応援してくれる地域の「小さなネットワーク」があります。それは自治会だったり、児童館だったり、おばあちゃんたちだったり…。皆、困難な若者としてでなく、「目の前の 1 人」として受け入れてくれます。そのつ

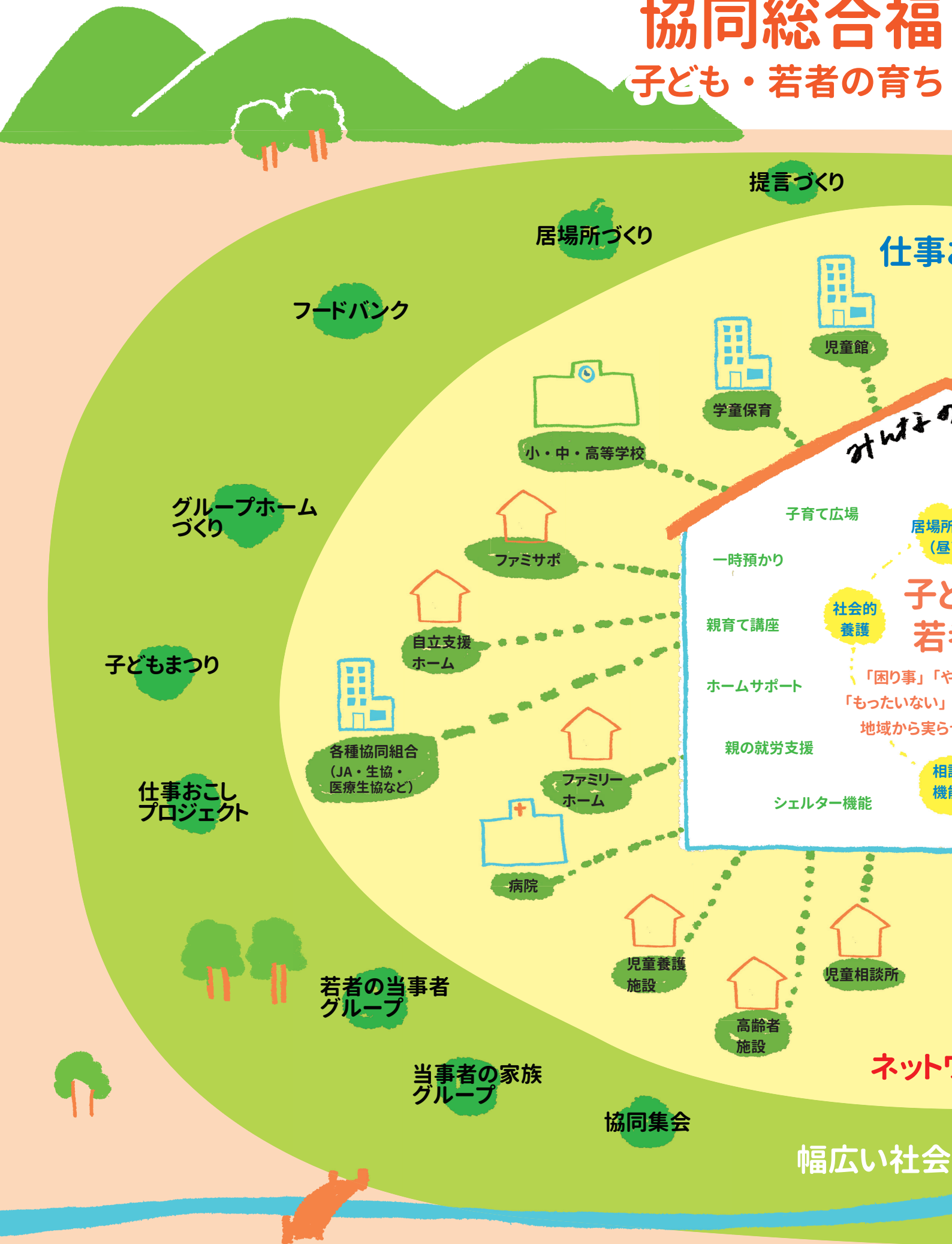
ながりから徐々に傷が癒され自分なりの「働く」を見つけていきます。今日も「誰か 1 人」の存在と出会うように活動していきます。

(所長 石井清孝)



協同総合福

子ども・若者の育ち



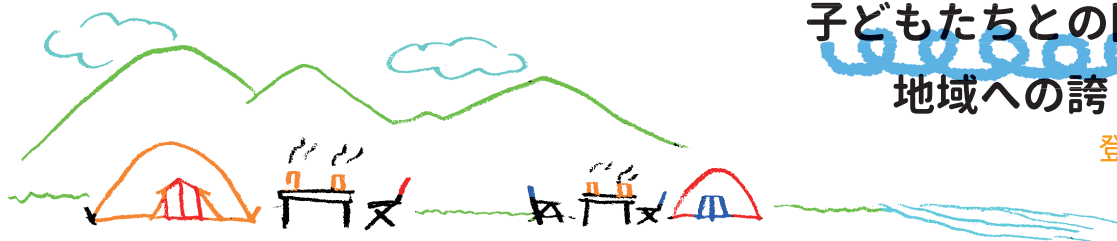
を支える地域づくり



子どもたちとの関わりの中で 地域への誇りを取り戻す

登米地域福祉事業所

宮城県登米市 / 共生型



デイキャンプ企画が地域に変化を

登米市の高齢化率は31.1%（県平均25.6%）、山間部では40%を超える町です。こうした背景から、地域にはどうしようもないというあきらめムードが覆っているように感じました。しかし、子どもたちとのデイキャンプ企画により地域に変化がありました。

デイキャンプの舞台となった鱒淵地域は

少子化の影響で、地域の保育所や小学校は統廃合され、現在では地域の小学生の人口は数名までに落ち込んでいます。こうした地域に30名近くの子どもたちが訪れることは地域に変化をもたらしました。

地域の誇りを取り戻す

このデイキャンプはワーカーズコープと鱒淵地域の住民から組織する「もりの会」が

企画しました。もりの会に参加している住民は地域の自慢を子どもたちに体験してもらうことで地域への誇りを取り戻しています。今後は、親子参加や宿泊を伴う企画など増やしていき、いずれ子どもたちが成長した時に鱒淵を思い出し、移住してもらいたいと夢を膨らませています。

（副所長 竹森幸太）

おはよう、さんぽに行ってくるね！

坂戸地域福祉事業所 いきいき ポレポレ保育室

埼玉県坂戸市 / 共生型

ハイタッチで笑顔満開

小規模保育ポレポレ保育室は駅前いきいきデイサービスに併設されており、0歳（6ヶ月）～2歳を対象としています。定員10名の小さな保育室です。

朝にぎやかな声が聞こえるとデイサービスの高齢者も「おう元気だな～！」と笑顔になります。お散歩に行く前には必ずおはようの挨拶のためハイタッチにやります。そうすると大きい手と小さな手が重なってみんなの笑顔が満開になります。初



めはしかめっ面していた方も今ではしっかりタッチしています。

「ゆっくり、のんびり」 見守っています

ポレポレ保育室の「ポレポレ」は、スワヒリ語で「ゆっくり、のんびり」という意味。地域の皆さんもお散歩に行くと声をかけてくれます。子どもがいるだけで地域も明るくなります。子どもたちの成長を、ゆっくり、のんびり見守ってくれています。

（所長 石橋妙子）

子どもたちも社会貢献

新潟事業所

新潟県新潟市 / 地域活動

明日食べるご飯がない

フードバンクにいがたは、2013年に社会連帯活動から始まった活動です。生活困窮者自立支援の会議で「明日の食事に困る」「米どころ新潟で、食べるご飯がない」という切実な声を受け、何かできることはないかと始まりました。最初は組合員がお米を1合ずつ持ち寄り寄付する運動から始まり、設立時には賛同する多くの団体や個人が運営に携わり、支援の輪が広がっていきました。2017年にはNPO法人として独立し、100団体以上を支援する地域になくはならない存在になっています。

他人事から自分事へ

活動開始から5年が経つ今も、組合員は毎月、お米を1合ずつ持ち寄りフードバンクへ届ける活動を続けています。また、運営する児童館では行事やお祭りでフードドライブを開催し、利用する子どもたちや保護者、地域の方々へ広く呼びかけ続けています。活動に関わる中で、目の前にある現実が他人事から自分事へ変わっていく。協同から生まれる共感を今後も広げていきたいです。

（副所長 山口由希子）



完食！

深谷ふぁみりあ地域福祉事業所

埼玉県深谷市 / 地域活動



無農薬野菜をおやつとして

2017年4月より、深谷市の指定管理業務として上柴東学童保育室と藤沢学童保育室の運営を行っています。同じく深谷市にある「深谷とうふ工房」と日々連携し、子どもたちの食育に取り組んでいます。

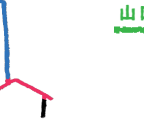
とうふ工房では大豆をはじめ無農薬での野菜の栽培、お弁当製造も行っており、色と

りどりの野菜を学童保育のおやつとして提供しています。

子ども時代に楽しく、おいしく

また、季節を感じられる食事として、恵方巻きやちらし寿司を提供していて、子どもたちに大人気です。お正月には、往復1時間の道のりを歩いてとうふ工房に行き、お餅つ

きを体験しました。杵と臼でついたつきたてのお餅をお腹いっぱい食べて大満足。長期休みには、希望者はとうふ工房のお弁当を注文しています。残すことなく完食する子が多く、保護者からの評判も上々です。このほか、夏休みには「子ども向け食育講座」を実施、添加物について学びます。子ども時代に楽しく、おいしい食事の体験をしてほしいと願っています。
(所長 吉川千恵子)



みんなで作ってみんなで食べる田んぼ

ワーカーズコープ山口

山口県光市 / 地域活動

「来年になったら田んぼに行ける！」

ワーカーズコープ山口は、2009年より「みんなで作ってみんなで食べる田んぼ」の取り組みを始めました。組合員同士の交流、地域コミュニティの再生、環境保全など様々な意味合いをもって始めた取り組みも10年目を迎えます。

地域の保育園の子どもたちとも8年前から交流を重ね、田植えから稲刈り、そして自

分たちの育てたもち米で行うもちつき大会を行なっています。保育園では「年長組になったらワーカーズコープの田んぼ作りに参加できる」と言われているようです。毎年、年中組の子どもたちは「来年になったらお兄ちゃん、お姉ちゃんみたいに田んぼに行ける」と心待ちにしています。

米作りではなく、田んぼ作り

1年目からの目標である、1年間に一人が食べるお米60kgをみんなの手でつくる「自産自消への挑戦は半分(30kg)まで昨年地点で達成しました。

「米作りではなく、田んぼ作り」これからも田んぼを舞台に物語を描いていきます。

(理事 中本英宏)

地域が支える、なるっこ食堂

西宮事業所

兵庫県西宮市 / 地域活動

学習と食事を支援

なるっこ食堂は2016年2月より、ひとり親家庭や、共働きの家庭の子どもが増加している中、学習と食事を支援するこどもの居場所作りを目的として行ってきました。

みんなで楽しく食事を囲むという経験ができる場という思いから、家庭料理の他、行事食や、外国の料理、旬の食材を使った料理などバリエーションを増やしています。食に関心を持ってもらいたいとの思いから、食育にも力を入れています。

地域の方が担い手に

学習についても、高校生や大学生の学習ボランティアの方にご協力いただき、学習のつまづきを無くすことを目的とし、宿題と一緒にしてもらっています。学校とは違い、楽しみながら学べる場だと考えています。

当初は私たちが地域に呼びかけ、活動をしていましたが、地域の方々から何かチカラになりたいとお声をかけていただく機会も増え、今では地域の方々が担い手となり子ども食堂を支えています。

(栄養士 岡崎有香)



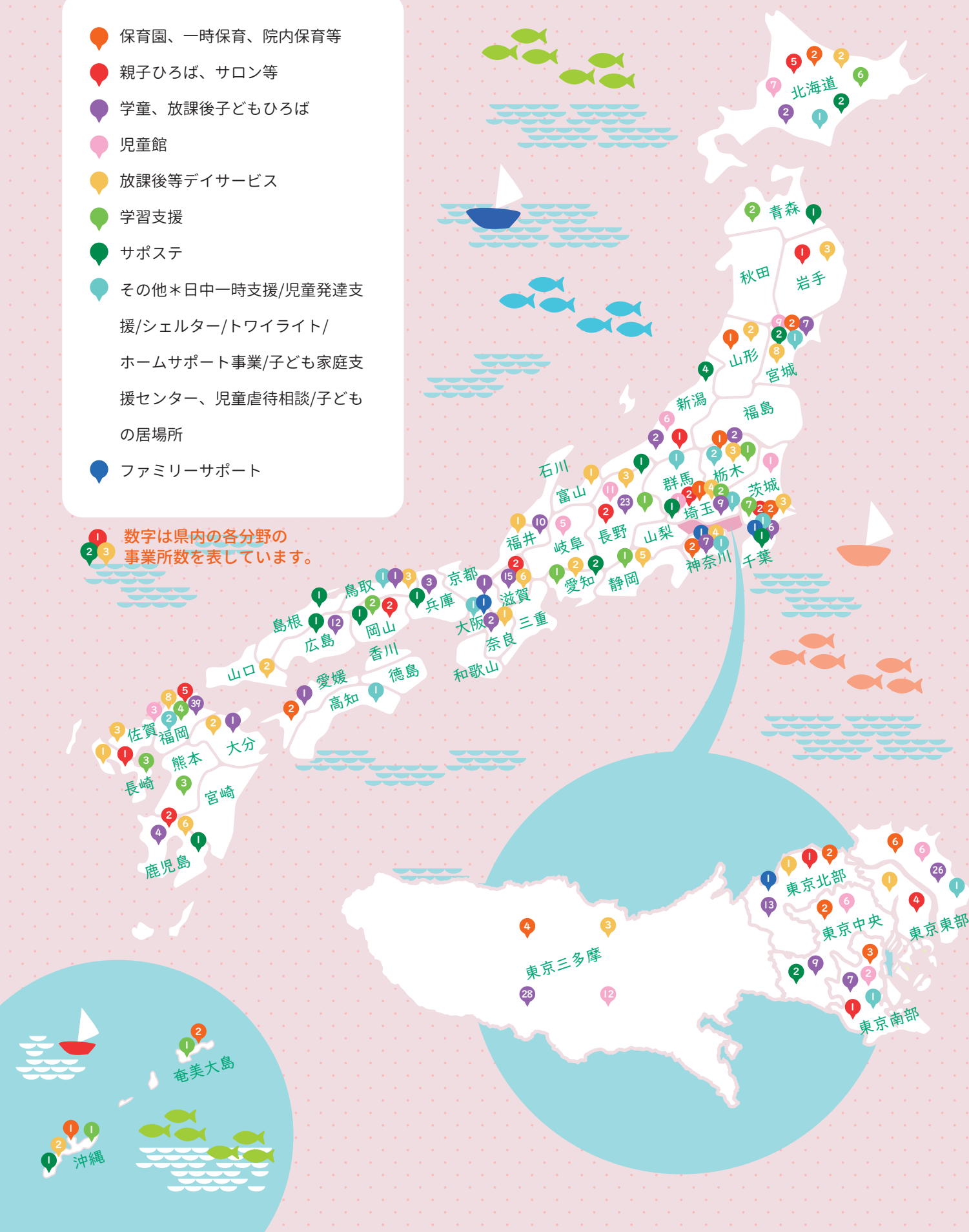
都道府県ごとの事業所数（全体）

子育て分野の事業所数 492 箇所

子育て分野に関わる組合員数 約 **4500** 名

- 保育園、一時保育、院内保育等
- 親子ひろば、サロン等
- 学童、放課後子どもひろば
- 児童館
- 放課後等デイサービス
- 学習支援
- サポステ
- その他＊日中一時支援/児童発達支援/シェルター/トワイライト/ホームサポート事業/子ども家庭支援センター、児童虐待相談/子どもの居場所
- ファミリーサポート

数字は県内の各分野の事業所数を表しています。



地球の未来を担う子どもたちへ

東京バイオマス地域福祉事業所 あぐりーん TOKYO

働く事こそが学ぶこと

ワーカーズコープでは2011年から廃食油を精製しBDF(バイオディーゼル燃料)製造販売業を行っています。元々は地域若者サ



ポートステーション等集ったニート、ひきこもりの若者たちの職場づくりとして始めた事業です。多くの若者たちがここで働き、社会に巣立っています。教育学の巨人、ペスタロッチやトルストイの実践同様、職場や働く事こそが人生を通した教育と居場所になっています。

「天ぷら油で動きますか？」

小学校に出向き、環境授業も行います。BDFで発電、アニメ「妖怪ウォッチ」の映像と音楽を流すと踊りだす子も。発電機の周りでは「唐揚げのにおいがする」

「天ぷら油を入れても動きますか」と次々と感想や質問が出されました。

ごみ削減{(5R ゴミ削減・再使用・再利用・修理・使用拒否)+1R(リスペクト)}、の他、地球環境保護、再生可能エネルギー、脱原発、といったキーワードから働くことの意義、平和を子どもたちに身近に感じて欲しいとの思いで話します。

この環境事業をESD(ユネスコの持続可能な開発の為の教育)としても活かしていきたいです。未来の地球を担う子どもたちに役に立てば幸いです。

(所長 黒田志保)

二宮尊徳の教えで農に挑戦

小田原・足柄地域福祉事業所 報徳ワーカーズ

2016 年報徳ワーカーズ立ち上げ

「譲って損なく、奪って益なし」は二宮尊徳の教え。報徳思想は協同組合の先駆けと言われています。そんな報徳思想の実践を経営理念に掲げた株式会社報徳農場と農業を通じた事業提携を行っています。

2016年より「報徳ワーカーズ」を立ち上げ、学校給食用の野菜作りを中心に米、柑橘類の栽培も行っています。就労が困難な人の働く場づくり、耕作放棄地対策といった地域課題も見据え、取り組みを進めています。

農薬や肥料を使わないお米づくり

報徳ワーカーズは小田原市内の小学校や養護学校の児童・生徒と一緒に、農薬や肥料を使わない自然栽培でお米づくりに挑戦しています。校庭に小さい水田を設けて、児童自身で田植えや稲刈り、脱穀等を行い、収穫したお米で食事会などを開いています。養護学校の生徒とは本格的に稲作を行い、収穫したお米は学校の文化祭や地元のスーパーで販売もしました。1年を通して毎週のように作業する授業もあり、雑草取りや収穫等、様々な作業を一緒に行っています。

(井上裕紀)



常設のプレイパーク設立を目指して

FUSSA 地域福祉事業所

東京都福生市 / 地域活動

プレイパーク設立に向けて

FUSSA 地域福祉事業所は、市民有志の「ふっさプレイパークを創る会」に所属しています。プレイパーク設立に向けた活動は、福生市子ども・子育て支援事業計画に盛り込まれています。福生市子ども家庭部と市民が協働で「プレイパークを考える会」を発足させました。現在は市民主体の創る会に移行し、試験実施等を行っています。

火遊び、水遊び、木登り。制限されがちな遊びこそ

普段大人から「危ないからやっばいはいけ」と制限されがちな遊びを「大切な経験」ととらえ、子どもたちが取り組めるよう工夫しています。火遊び、水遊び、木登り。竹や木材の切れ端を使った工作、ウィンナーや芋を焼いて食べる体験。初めて虫眼鏡で火をつけた、初めてマッチを触ったという子もいました。子どもたちや親御さんも含め、のびのびと自由に遊びます。「自由こそ一番の魅力」と考え、プレイパークの充実に力を尽くしていきたいです。

(所長 神山千歳)



つぶやきから口頭詩集へ

北陸信越子ども・若者プロジェクト

新潟県新潟市 / 地域活動

つぶやきをありのままに

子どもたちの普段何気なく発している言葉を、一緒に過ごしている職員が聴き取り、それを発した背景とともに活字に起こしたものをまとめ、「口頭詩集」を作りました。

私たちがこの活動を行なう時に気を付けた事は、子どものつぶやきをありのまま使うこと。年齢、性別、季節は書き留めます。しかし説明めいた文や職員の一方的な思いは極力入れず、背景は簡潔にすること。客観的に、言葉の表現なので句読点を打たない。といったことです。

子どものつぶやきのみでも十分ですが、背景がつくことにより、さらに子どもたちの言葉が生きてきました。

大切な言葉に気付く

集めている中で職員の気付きもありました。聞き流していた大切な言葉に気付き、子どもの言葉に注目して耳を傾ける機会が増えました。製本した口頭詩集を図書室に置くことで、子どもが自然に手に取り読み聞かせをする姿が見られました。自分たちが主人公の本は子どもたちも嬉しい様子でした。

(竹内亜哉)



『やってみたい』の気持ちを育てる

東京東部事業本部

東京都足立区 / 地域活動

大人気イベントー夏のキャンプ

東京東部事業本部では、運営する学童や児童館に通う子どもたちを対象に、夏のキャンプに取り組んでいます。人気のイベントで、6年前にスタートした時から毎年参加している子どもたちもいます。多い時で100名ほどの参加があります。私たちも安全に気を付けつつ、自然の中で子どもたちが遊び学ぶことを大事にしています。

利用者から支える側へ

キャンプ実施にはボランティアが欠かせません。活躍してくれているのは当初から参

加してくれている中高生メンバーです。最初は利用者として参加する彼らでしたが、中学生になりキャンプの運営に携わるボランティアとして参加してくれました。その子たちが18歳になり児童館を卒業し、中には児童館でアルバイトをするメンバーもいて、日々奮闘しています。自然の中での体験は、子どもたち、またそのキャンプを支える側となった中高生たちにも「やってみよう」という気持ちを育てる場になっています。

(所長 猪瀬雄司)



「制服バンク」の取り組み

ワーカーズコープちば

千葉県船橋市 / 地域活動

全てを揃えると7万円

ワーカーズコープちばでは、2017年11月より「ふなばし制服バンク」をスタートさせました。いらなくなった制服を回収し、安価で販売する取り組みです。

身近な地域の制服事情について調べてみると、学生服上下3万円、シャツやジャージなど全てを揃えると7万円近くと高価なこと、採寸の時期と入学までに約3か月、その間に子どもの体が大きくなる場合もあり、新たに買い揃えれば経済的に負担になるといった事実が見えてきました。

詰襟 3500 円、ズボン 2000 円

制服の回収は地域の協力店、自治会、町内会、市内の子ども食堂などに協力を仰ぎました。また、回収した制服のクリーニングも引き受けてくれるお店もあります。

詰襟 3500 円、ズボン 2000 円で販売を始めると「年子で上の子のを全て揃えたら下の子まで余裕がなくなった」「体が大きくなってしまっ」と様々な理由で買い求めに来る方がいます。今後は制服だけでなく学用品のリユースを専門にしたチャリティショップができないかと考えています。

(及川恵)



働いている人の声

多様性を認める
土壌が
ワーカーズにはある



小嶋 智子さん 4年目

東京都 荒川にここに地域福祉事業所
(尾久小にここにすくーる)

入団当初は体調不良もあり不安でしたが、所長をはじめ先輩方が指導して下さり、少しずつ仕事を覚えていきました。この職場で感じたのは「自分が受け入れられている」という感覚。今まで働いてきたどの職場でも感じなかったことです。ワーカーズコープの集会に参加し理事長や他現場の事例を聞いた時、多様性を認める土壌がワーカーズの根底にあるという事に気づきました。職場である放課後スクールではクリスマス会や夏祭りの音楽を担当したり、ワーカーズコープの文化祭で仲間と一緒に音楽を発表したり、自分の特性を活かす機会を与えて頂きとても充実しています。夢を描くと実現すると言う事をこの仕事は教えてくれました。仲間と一緒に、大好きなこの町の子どもたち、大人たち、お年寄りの方みんなに喜んで頂ける仕事ができたらいいなと思います。

みんなが
主体だからこそ



宮澤 宏樹さん 4年目

茨城県 つくばみらい地域福祉事業所 (小絹児童館)

子どもたちは個性があり、成長する力があり、関係性の中で成長します。同じ対応をするマニュアル化された仕事ばかりの職場ではなく、それぞれの個性を活かし合いながら働ける包括力を備えた子育ての職場は、子どもや保護者の成長の幅を与えると確信しています。そこに私はやりがいを感じています。利用者主体、働くものの主体の私たちだからこそ、みんなで新しい仕事や事業を作り、子どもや保護者の困りごとを解決することもあります。

私たちの職場では、働きやすい職場づくり、利用者との対話、職員間の話し合いを大切にしています。何でも話し合い、相談し合うことは意外と難しいです。ただそれが、子どもや保護者のためになっていると実感できることは、私たちの一番の楽しみかもしれません。

みんな平等。
誰かが偉い
わけじゃない



竹内 亜哉さん 10年目

長野県 松本事業所 (旭町放課後児童クラブ)

私は以前、松本市の嘱託保育士として保育園に勤務していました。常勤で働ける職場を探していたところ、地方紙にワーカーズコープの児童館常勤職員募集の求人広告を見つけました。入団して以降、興味を持っていた児童厚生員の資格を取得したり、仕事への向き合い方、協同労働についてたくさんのことを学びました。所長から「常勤・非常勤のどちらかが偉い訳ではなく、みんな平等。たまたま働く時間が長いのか短いのかの差。だから気づいたことがあればお互い意見を出せるようになれるといいね」と言われました。松本事業所では経営のこと、子どもたちとの関わり方など、様々なことを話し合っていて決めていく姿勢がありました。

ワーカーズコープは自分たちで経営等の責任をもって仕事に向き合わなくてはならないシビアな面もあります。企画を考えてプレゼンし、予算に頭を抱えることもあります。でも新しいことへのチャレンジは楽しいです。

一番のやりがいはいは
子どもたちの成長です



古賀 拓弥さん 1年目

福岡県 ふくつ地域福祉事業所

子育て現場で働く中で、様々な人と関わらせていただきました。

4月から始まった津屋崎の学童では、様々な子どもがいる中で子どもにとっても、保護者にとっても、安心できる居場所が必要だと痛感する場面が多々ありました。

子どもと接する上で「子どもを見る」こととはなにかを考えさせられました。

また、様々な人とかかわる中で、僕自身、実になることや、気付けることが多くあり、そのことを来てくれている子どもたちや同じ現場で働く仲間とどういう形で返していけるかが自分の課題だと感じています。

最後になりますが、子育て現場で働く中で一番のやりがいは、子どもたちの成長です。

そんな子どもたちの育ちの場、様々な人と関われる場を、これからも働く仲間と一緒ににつくっていきたいと思っています。

よい仕事を高めるために

話しあい 研修

現在、学童クラブでは14名の組合員が働いています。週1日の人もいれば、週5日朝からの人もいて、働き方は本当に様々です。

「もっと保育の事を話し合いたい」そんな言葉が組合員から出てきて、月に一度振り返りの話し合いをするようになりました。“実践していることで、継続したいこと”“課題に感じている

事”“課題の解決としてやってみること”その3点について全員で意見を出し合い、実践することを決めます。

「こんなに効果があるとは思わなかった」「みんなの意見が聞けてよかった」確実に組合員の意識が変わってきました。話し合いをして、みんなで決める。ここに協同労働の基本があると感じています。

現在は、振り返り会と事例検討会を交互に行っており、今後は併設の児童館も含めた話し合いへと発展させていくのが組合員の目標です。

(もえぎ地域福祉事業所 文京目白台総合センター 所長 横須賀鮎子)



協同労働のリスクマネジメント（一部紹介）

私たちは常に、子どもたちに「楽しんでほしい、様々なことを経験してほしい」と願い、関わっていますが、支援員としては楽しいばかりではなく、子どもたちの「安全」についても考えています。

子どもたちの安全を守るための、ヒヤリハットは必ず話し合いの中で出てきますが、子どもたちのよい所についての話が少ないことに気づきました。そこで、子どもたちの「にやり」、「ほっと」とする場面を出し合うことにしました。すると、子どもたちとのコミュニケーションや小さな気づきも増え、職員間の情報共有も積極的に行うようになりました。また、子どもたちのことだけではなく、仲間のよかったこと、素敵だと思ったことも出されるようになると、一人ひとりの「やる気」や「やりがい」にも繋がり、チームワークもよくなっていきました。私たちは、「にやりほっと」の取り組みを通して、大人の都合ではなく、子どもにとって何が大切なのかをしっかりと考えていくことが何よりも大切なのだと気づかされました。

(東京東部事業本部 事務局次長 磯貝尚美)

自治体との連携

とっとり子ども未来サポートネットワークは、鳥取県内で子ども食堂や子どもの居場所を立ち上げようとする個人や団体へのサポートを目指す県の任意団体です。

さんいんみらい事業所は県内各地に拠点があることや、子ども食堂、放課後等デイサービス、児童クラブなどの子育て支援の実績から、県の福祉保健課や鳥取県社会福祉協議会をはじめ、こども食堂運営団体などの推薦を受け、2017年10月からこのネットワークの事務局を担うことになりました。2018年1月にシンポジウム「広かれ、こども食堂・こどもの居場所の輪！全国ツアー in 鳥取」を開催。福祉関係者や子ども食堂に関心のある市民など150人が参加しました。

さんいんみらいは、2018年3月に鳥取県中部の倉吉市で「放課後等デイサービスみらい」を立ち上げました。他にも、子どもの居場所づくり事業や学習支援事業もいくつかの自治体に提案しています。こうした事業と併せ、県内全域でこども食堂なども広げていきたいと考えています。

(さんいんみらい事業所 所長 大谷信一)

病院との連携事例

川崎南事業所は現在、病院清掃、院内保育、訪問介護、放課後等デイサービスといった事業を展開しています。当初は病院清掃の仕事のみ行っていましたが、看護師さんの子どもたちのための院内保育所を始めることになりました。清潔な環境を保持するだけでなく病院で働く看護師さんたちの子育てを応援することにもなり、看護師さんから信頼していただいております。それが保育部門、清掃部門の両方の組合員にとっても誇りとなっています。病院移転とともにその跡地の利用についてもお声がかかり、その場所で放課後等デイサービスを始めています。

(川崎エリアマネージャー 長沼正樹)

大学との連携

協同総合研究所は「協同」を根本テーマに置き「就労創出・自治・地域づくり・労働・困窮・公共・連帯経済」等のテーマで200名を超える多様な分野の研究者のネットワークを組んでいます。大学において、寄付講座を開講（2018年度9大学実施予定）し、協同の「研究」「学び」「調査」「開発」を進めています。

(協同総合研究所 事務局長 相良孝雄)



識者からの期待の声

『子どもを一人育てるのに、 村がひとつ必要』

汐見稔幸 氏（一般社団法人 日本保育学会 会長）



『子どもを一人育てるのに、村がひとつ必要』

(It takes a village to nurture a child)

これはアフリカのある地域の言い伝えということである有名な言葉です。

言い得ていて、すごいなと思います。ここには、子どもは狭い家庭の中だけでは育たない、自然があり、歴史があり、地域の文化があり、いろんな人がいる、そんな場所では育たないという人間の育ちの最大の原理が含まれています。子どもは地域のいろいろな場で自分を試し、自然から学び、文化から学び、人々から学んで育つということですが、それ以上に、子どもはそうした環境があれば自分で自分を育てていく、という原理も含意されています。子どもは大人から指示され教えられるから育つわけではない、もっと根っこで、子どもは自分で自

分を育てようとするから育つのだ、という原理です。しかし、そのためには、子どもが、みんな、あれ、すごい、私もあんなことしてみたい、こんなすばらしい人がいるんだ、ボクも同じことをしてみたい、という、意欲、生きる力を引き出す、ホンモノの文化が必要です。地域ということは、その意味で子どもたちのいのちが輝く引き出し要素すなわちホンモノの文化があるところなのです。

もう一つあります。人類学の研究では、母親は孤立して育児をしたことはないということが分かってきています。いつの時代も、母親も地域で群れて子どもを育てたのです。

いずれも、21世紀型の新しい社会づくりの内容的なテーマですが、共通して、新たな協同、協働が課題です。子育て協働は、世直しの現代的な窓口だと思います。

子育てはどこを目指すのか？

－改定保育指針と協同労働の子育ち指針

片岡輝 氏（詩人／東京家政大学名誉教授）



保育指針の改定が保育界を揺るがしています。この改定は何を目指しているのでしょうか？

世界各国の最新の教育学の知見や実践の理論を取り入

れて、これまでの「養護」をコアにした遊び中心の生活を通して子どもの発達を保障する保育から、小学校への接続を視野に入れた教育的なカリキュラムを組みこんだ

グローバルスタンダードの保育へと舵を切ろうとしていることのほかに、国歌・国旗への親しみや我が国固有の文化やモラルを育てるといった、小学校・幼稚園の指導要領に合わせる形でこれまでの指針には見られなかった政治的な文言が加わり、保育内容への「忖度」を促す形での管理統制と分断が始まるのではないかという、疑念と危惧が現場に広がりつつあります。研究者の指針読解も揺れています。

そもそも、保育指針は、子どものより良い発達と、遊びを通した主体的な学びを保障し、子どもの最善の利益を支える保育者が守るべき基本法であって、その心と眼は、あくまで子どもへそそぐ愛情が原点であり、国家や

時の為政者を意識したものであってはならないはずです。

この春、施行され、公示という形の強制力を持つ指針は、いわば保育にかかわる者の保育観をあぶりだす写し鏡です。指針を批判的に読み解くには、自らに確固たる保育観を持たなくてはなりません。その力強いよりどころが、「協同労働の子育て指針」であり、この指針の沿って積み重ねてきた実践です。協同労働の理念と5つの指針は、保育・教育・子育ての憲法であり、保育・教育・子育てという人間の大切な営みを私たちから篡奪しようとする国家や為政者や同調圧力から子どもたちを守る砦です。誇りと自覚を持って、日常の取り組みの屋台骨にしていきたいと願っています。

自ら花開いて 大田堯氏（東京大学名誉教授）



労協のDNAは、「労働者が主人公になり、主権者になる」、もう一つは「失業、貧困、戦争といったものに抗する」ということです。労協はこの二つのDNAを持ち、「生命」を中心に据え、社会を考え、未来を考え、現在に対応するということを実践されてきました。

労協が目指すものを一言で言えば「基本的人権」ではないかと思います。「基本的人権」を「生命」から考えると、生命個体は一人ひとりが「違う」ということなのです。その違いは、ユニークな生命の特徴ですから自己中心的にもなります。一方で人間は他者や自然に依存しないと生きていけません。そういう関わりの中で、生命は自らユニークに変わり続け、自ら花開いていく。この生命の特

徴を踏まえて、人と人との付き合い、運動というものを展開すること、それが「基本的人権を軸にした社会」の実現だと私は考えています。

私なりに「仕事」を考えると、石川啄木の歌を思い出します。「こころよく我にはたらく仕事あれ それを仕遂げて死なむと思ふ」。自分の好きなことがあり、自らが選んで仕事をする。これが労協の目指す働き方ではないでしょうか。この世の中はすぐに思いどおりにはなりませんが、そこに一歩でも近づくために手を打つことが大切だと思うのです。労働者協同組合に大変期待をしています。

書籍・映画

1. 「協同で仕事をおこす

— 社会を変える生き方・働き方 —

センター事業団をはじめとした協同労働の現場の実践ルポ。高齢者介護・子育て関連・若者や障がい者の就労支援などの活動事例が豊富に紹介されており、「雇用労働」にかわる新しい働き方である「協同労働」の理論と実践、そしてそこで働く仲間の思いが分かりやすくまとめられています。これから協同労働を学びたい、参加したいと思われる方が、協同労働の実際を具体的にイメージできる内容になっています。

(広井良典 編著、コモンズ、2011年11月20日 1500円＋税)

3. 「口頭詩集 かんぶりないだ」

子どもの普段の何気ない言葉「子どものつぶやき」を現場の職員が拾い、背景と共に活字に起こし詩集にしました。子どものつぶやきだけでなく、背景がつくことにより、子どもたちの言葉がより生きてきます。口頭詩集の活動を通して、職員自身も子どもの言葉に耳を傾けることが増えてきました。

(北陸信越事業本部子ども若者PJ 第1集2017年9月16日 第2集2018年2月17日)

2. 「共に働き、共に生きる

— 協同労働がつくる地域のかたち —

ワーカーズコープの若者・障がい者・生活困窮者等に係る制度を活用した事業の実践事例集。協同労働のケアと文化、職場づくりの葛藤、子どもの学びと育ちを地域で創る取り組みを紹介しています。

お互いを認め合い可能性を活かし合う協同労働の魅力と葛藤、地域づくりなど14本の事例を収録しています。

(日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会 著編・発行、2017年11月 お求めはワーカーズコープ事業推進本部まで)

4. 「協同労働の挑戦—新たな社会の創造—」

故菅原文太氏、姜尚中氏らが、今社会に思うこと 大いに語る！

日本と世界は今、歴史的な岐路にさしかかっています。経済成長や市場原理がすべてといった資本と国家の論理にかかわる、地域と生活、人間を基礎においた「共に生き、共に働く社会・経済」のあり方はどこから生まれてくるのか。また、そのような社会をつくる上で、協同労働という新しい働き方の持つ意味や可能性に言及します。

(日本労働者協同組合連合会 編集、萌文社 2016年4月 1400円＋税)

5. 映画「ワーカーズ」(2012年)

東京の下町、墨田でのセンター事業団(ワーカーズコープ)の実践を追ったドキュメンタリー映画。地域に密着し、地域で必要とされている仕事を地域の人たちとともに起すことでまちづくりに取り組む協同労働の実践が、そこに関わる人びとの姿を通じていきいきと映し出されています。人間らしい働き方、人間らしい暮らしとは何かを改めて考えさせられる映画です。

(監督：森康行 2012年)

6. 映画「ワーカーズ 被災地に起つ」(2018年)

震災は、日本の地域の問題(少子高齢・人口減少・限界集落)をあぶり出し私たちに「何のために生きるのか、何のために働くのか」を問いかけました。

被災地域の当事者(いじめ・ひきこもり・障がい・ひとり親世帯・リストラなど)たちは、ワーカーズコープ、協同労働と出会い、震災で「生き残りたいのち、生かされたいのち」を地域で支え合いながら、つないでいく、生きていく決意と覚悟を決めます。地域の人もその取り組みに共感し、同じ地域で生きる仲間として、地域の再生とともに取り組みます。「戦後」という言葉がある様に「震災後どう生きるか」を映画「Workers 被災地に起つ」は問いかけています。(森康行監督メッセージより抜粋)

(監督：森康行 2018年)

1.



2.



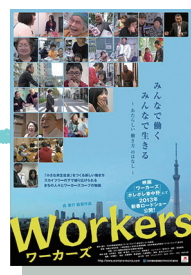
3.



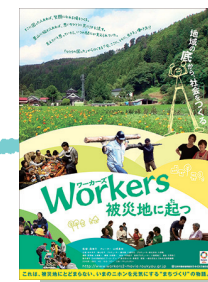
4.



5.



6.



フォーラムの紹介

子ども・若者フォーラム 2014

困難を絆に 子育ての社会化を考える

～動き出した子どもたち。そこから何を学ぶのか・・・～

希

望

を

の

と

今、子どもから「助けて」という悲鳴が聞こえてきます。

一方で困難を抱えた子ども達や若者も

仲間同士で支えあい、生き生きと動き出しています。

子ども達の「生きる力」を尊重し支えよう

子育ての社会化について学びましょう。

1月11日(土) 12日目

早稲田大学戸山キャンパス

東京都新宿区戸山1-24-1

FLOWERTRAIN 朝比へいしゃ

上野駅、池袋と通ずる地下鉄有楽町線
フラワーライン。開業直後の内乱、急激な
人口増加による乗客増大の危機、さら
には戦時中にも乗客が増えるなど、二回
戦争を経験したものの、乗り手が増え
利益が出たという歴史がある。これら
を踏まえてこのイベントを開催する。
このように社会課題をどう解決してい
てますか。2日連続分岐点には必ず
なっています。

11時45分~12時30分まで

11日 知識(16:15)→12日 コンメンター

11日 知識(16:00~)

11~12日 コンメンター

12日 コンメンター

仁藤 夢乃氏
一般社団法人
住友、明治生命理事

堀山 均氏
一般社団法人
住友、明治生命理事

片岡 康氏
東京女子大学専任講師
個人

中村 桂子氏
日本経済新聞記者
個人

永戸 祐三氏
日本経済新聞記者
カブコム証券代表取締役
個人

加藤 彰彦氏
日本経済新聞
住友生命専任顧問
個人

汐見 稔幸氏
大阪府知事
大阪府知事
個人

主催／子ども・若者フォーラム2014実行委員会

(NPO法人フューチャーズ 子どもたちを守る会(親子と子どもの貧困問題))

協力／一般社団法人社会奉仕機構(本学が協賛機関ワークス連携会)一般社団法人協同組合研究所・大学生ネットワーク・社会福祉法人社会福祉協議会

※料金は大人(連日2,000円、1日1,500円)学生(1日1,000円〜500円)、18歳以下無料

※ワーカーズ・ユースは、働く・育つための実践、経理・総務・事務の補助を行います。定価100円未満であるより支援活動の中心に、子育て社会を築く方々の声と意見を大切にします。

ワーカーズコープ 新書 大規模研修会

地域子育てフォーラム

～地域をつくり 地域で育つ子どもたち～



私たちがワーカーズコープは「共に生き共に育つ子どもの権利」を合言葉に、全ての子どもと大人が大切にされる協働の地域づくりを
から行ってきました。東日本大震災・原発事故を経験した、高度成長時代の「地域が育んだ地域社会第一主義の子育て」から自らの
想いをつなぐ「地域をつくり地域で育てる子育て」への大転換が求められているのではないのでしょうか。新しい時代を拓く子どもたちの
可能性を共に育つ地域をいかにつくりましょう。

2018年2月18日(日) 会場：駒澤大学 深沢キャンパス
参加費：500 円 ＊学生は無料

120 周年アカデミーホール

記念講演「変革者たれ」
講師：渡辺 正典（元山梨県知事・元 立
憲民主党立憲社会政策研究センター 代表）
 1960 年岐阜県立川口高等学校卒業
 東京大学法学部卒。立憲政治論、憲法の解釈や明
 確な憲法論を軸として、政治的発言を続ける。政治学博士
 候補。現職。前代表。

プロフィール 1000 名超え・参加目標 1630 名超え（希望）

10:30	間部弘彦	ワーカーズコープ 青森協働 馬場幹夫
10:40	大宮俊彦	新潟大生 渡辺 松本昌子氏
10:50	日誌 林謙夫	「変革者たれ」 内野耕一氏
12:00	昼休みの時間	
13:00	16:00 地域ディスカッション	

「地域をつくり 地域で育つ子どもたち」
 アカデミーホール 中村は、高橋美典氏
 ワーカーズコープ 松本昌子氏、伊藤由紀子
 市川尚子氏、岡元久子
 大村・河津美津子氏 聖平洋子
 コメンテーター ワーカーズコープ 塩井中幸子
 コーディネーター 高橋美典氏 玉木恵博氏
 14:45 読書講演 「子どもが関心している」 高橋美典氏
 15:45 質疑
 16:15 閉会 ワーカーズコープ 副理事長 関根信

総括講演「こどもの里が関心したいこと」
講師：田口 亮子（しらべとまこと）氏



「教育と政治の境界線」に代表される、こどもの権利、憲法
 的権利をテーマに、大々的発言、著書の出版など活動の
 中心を「子どもが関心していること」に置いている。H27 年に「こ
 の里」地域をつくりたいと宣言し、市民の意見を集め、少
 数の子どもの権利運動を軸として、政治的発言を続ける。政治学博士
 候補。こどもの里が関心していること、子どもが関心していること
 について、子どもの権利運動ネットワークで活動中。

前日イベント
 ～今日の講演に先立ち～
 「さくらにきたら ええやん」の上映会を行います。
 上映時間：19:00～20:00（入場は18:30から可能です）
 当日 9 月 17 日（土）13:30～
 「さくらにきたら ええやん」 44-8
 上映 12:00 オープン 18:00
 日本労働組合総連合会（ワーカーズコープ）
 運営会 宮澤 誠



**さくらにきたら
ええやん**

〒170-0013
 東京都豊島区東池田 1 丁目 44 番地 3 号
 深沢 107 アカデミーホール
 日本労働組合総連合会（ワーカーズコープ）運営会
 代表 宮澤 誠 03-6907-8031
 Tel: 03-6907-8030 Fax: 03-6907-8031

2014 年度

2018 年度

2010 年度

「子育てフォーラム」—困難を絆に—

東京家政大学 2月5日(金)・6日(土)

記念講演：東京大学名誉教授 大田堯氏 パネラー：大阪アトム共同保育園 園長 市原悟子氏ほか

コメンテーター：江東区子ども家庭支援センター「みずべ」スーパーバイザー新澤誠治氏／北海道大学大学院教育学
研究院教授 宮崎隆志氏

2012 年度

「子育てフォーラム」新しい地域の再生と子育て支援～被災地でつなぐ輪～

大東文化大学板橋キャンパス 2月11日(土)・2月12日(日)

講演：白梅学園大学学長 汐見稔幸氏／沖縄大学学長 加藤彰彦氏／作家 落合恵子氏／大東文化大学学長 太田政男氏 ほか

2015 年度

「子ども・若者フォーラム 2015」 みんなでこの国の未来を考える～平和・いのち・自由、そして協同の力～

早稲田大学大隈講堂・早稲田大学戸山キャンパス 1月10日（土）・1月11日（日）

講演：詩人 谷川俊太郎氏／子ども白書編集委員長 早稲田大学教授 増山均氏 ほか

2017 年度

「地域子育てフォーラム」

駒澤大学深沢キャンパス 120 周年アカデミーホール 2 月 18 日（日）

記念講演：福島県立ふたば未来学園高等学校 校長 丹野純一氏／記念講演：特定非営利活動法人 子どもの里 理事長 荘保共子氏 ほか



日本労働者協同組合（ワーカーズコープ） 連合会とは？

日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会は「働く者や市民が協同で出資し、民主的に経営に参加し、生活と地域の必要に応える仕事を自らの手でおこす『協同労働の協同組合』として、「よい仕事」を高め、働く者「一人ひとりの成長と発達」を追求する—この考えに到達するまでに、前史的な取り組みを含めて約40年の歴史を要しました。

私たちは、1979年に中高年雇用・福祉事業団全国協議会を結成し、今日、全国の労働者協同組合、高齢者生活協同組合、ワーカーズコープをめざす組織など27（2018.6現在）の会員組織が集い連合会を構成しています。

戦後の失業者当事者の就労創出の運動から出発した事業団運動は、1980年代半ばに労働者協同組合へと発展し、ビルメンテナンスや清掃、物流業務などの協同組合間連携事業を基礎に、地域福祉（介護、子育て）や公共サービス関連事業、自治体からの要請を受け職業訓練講座や生活困窮者自立支援制度などを活用して、社会的困難にある人びとの自立・就労支援の事業を展開。

また、2011年3月11日の東日本大震災を契機に、F（食）E（エネルギー）C（ケア）地域自給圏を構想し、農業林業などの第一次産業の事業に挑戦してきました（2016年度335億円の事業高、1万3420人の就労組合員、5万人の高齢者生協組合員）。

そして現在、地方自治体からの地域づくりの期待に応え、協同労働を活用して、地域住民自らの手でそれらの再生に向けた社会連帯による仕事おこしの取り組みを進めています（広島市では協同労働プラットフォーム事業として政策化）。

私たちが暮らす日本社会は今後、成長なき人口減少社会、超少子高齢社会という誰もが経験したことのない歴史的な大転換期を迎えます。成長経済とそれを支えてきた福祉国家の破綻的事態の中で、市場や国家は地域社会の再生や社会的困難の矛盾を克服する主体にはなり得ません。市民が主権を持って働くことができる協同労働により、暮らしの中に仕事をおこすことで、企業一元支配の社会から脱却し、労働と生活のコミュニティが重なり合うような、市民主体の地域づくりを進めていくことができるものと考えています。

私たちは、働きたいと願う誰もが安心して働くことができる「完全就労社会」、そしてその働きがディーセント（人間らしい働きがいある労働）であるような「新しい福祉社会の創造」をめざして活動を進めています。

協同労働の協同組合を社会の制度とする法制化を実現し、「協同労働」による地域づくり・仕事おこしに取り組み、共に新しい時代を切り拓いていきませんか。

協同労働の協同組合の原則

社会連帯と協同の力で新しい福祉社会を創る

私たちは、発見した。
雇われるのではなく、主体者として、
協同・連帯して働く
「協同労働」という世界。
一人ひとりが主人公となる事業体をつくり、
生活と地域の必要・困難を、働くことにつなげ、
みんなで出資し、民主的に経営し、責任を分かち合う。
そんな新しい働き方だ。

私たちは、知った。
話し合いを深めれば深めるほど、
切実に求められる仕事をおこせばおこすほど、
労働が自由で創造的な活動になればなるほど、
人間は人間らしく成長・発達できる、ということ。
私たちは直面している。
人間、労働、地域、自然の限りなき破壊に。
だからこそ、つくり出したい。
貧困と差別、社会的排除を生まない社会を。
だれもがこころよく働くことができる完全就労社会を。
あたたかな心を通い合わせられる、
平和で豊かな、夢と希望の持てる新しい福祉社会を。

私たちは、宣言する。
「失業・貧乏・戦争をなくす」という先人たちの誓いと、
「相互扶助」「自治と連帯」「公平と公正」という
国際的な協同組合運動の精神を引き継ぎ、
協同労働を基礎にした社会連帯の運動を大きく広げ、
市民自身が地域の主体者・当事者となる、
自立と協同の新しい時代を
いま、ここに、共に、切り拓くことを。

原則

協同労働の協同組合は、共に生き、共に働く社会を
めざして、市民が協同・連帯して、人と地域に必要な
仕事をおこし、よい仕事をし、地域社会の主体者
になる働き方をめざします。尊厳あるいのち、人間
らしい仕事とくらしを最高の価値とします。

- 一 仕事をおこし、よい仕事を発展させます
- 二 自立・協同・連帯の文化を職場と地域に広げます
- 三 職場と地域の自治力を高め、社会連帯経営を発展させます
- 四 持続可能な経営を発展させます
- 五 人と自然が共生する豊かな地域経済をつくり出します
- 六 全国連帯を強め、「協同と連帯」のネットワークを広げます
- 七 世界の人びとの連帯を強め、「共生と協同」の社会をめざします

私たちの働き方



「協同」とは「力を合わせ、助け合い、支えあって共に働くこと」。「協同労働の協同組合」は【出資】【経営】【労働】を「三位一体」で組合員全員が担い合う協同組合です。

一般的な働き方



編集後記

協同労働の子育ち事業が始まったのは日大の院内保育園からでした。

35年前の1980年。ワーカーズコープの前史の時代でもあり、その後すぐに、地域の子育て支援「あざみ」が開所しました。2002年頃から本格的に子育て事業が広がり、今ではワーカーズコープセンター事業団では事業構成比の45%になっています。事業が広がってきた背景には、官から民への地方自治法の改正もありましたが、子どもや保護者、市民や行政の方々が協同労働の子育ちの理念に共感して下さったことが何より大きかったと感じています。

協同労働の子育ち指針の冒頭に「子どもたちは未来そのものです」という言葉が書かれています。次の社会をつくっていくのは「子どもたち自身」です。協同労働の子育ちは「子どもを真ん中においた社会」をつくること、そして私たち大人は「どういう社会を子どもたちに残すのか」を考える。「子ども自身がどういう社会を望むのか」をしっかり聞きながら、「子育て」をサポートすることが問われています。

今、私たちワーカーズコープの最大のテーマは「協同総合福祉拠点」づくりです。激しい市場競争の中で、「命」が軽視されがちになっているように思います。だからこそ、豊かな人や自然との「かかわり」をとり戻す場所や活動を地域に無数に創っていく必要があります。そのことが「命が育つ地域づくり」だと100歳を迎えた大田堯先生からご教授頂きました。

協同労働の法律の制定も生かして、地域の協同総合福祉拠点である「みんなのおうち」運動を現場から多様に創造していきたいと考えています。

子ども子育てケア プロジェクト長
馬場幹夫

日本労働者協同組合連合会 加盟組織

加盟組織	TEL	FAX	加盟組織	TEL	FAX
北海道労働者協同組合 (ワーカーズコープ北海道)	0166-59-5280	0166-59-5283	企業組合労協ながの	026-219-1190	026-219-1196
企業組合石巻地方 中高年雇用福祉事業団	0225-98-3075	0225-98-3076	特定非営利活動法人 ワーカーズコープかがやき	026-263-2386	026-263-2385
企業組合ワーカーズコープビホロ	0225-50-1110	0225-50-1105	企業組合三重中高年雇用福祉事業団	0598-26-3169	0598-26-3201
企業組合とちぎ労働福祉事業団	028-645-5561	028-659-4959	企業組合神戸労協	078-641-9801	078-641-9802
ワーカーズコープちば	047-467-4920	047-469-2038	企業組合 はんしんワーカーズコープ	06-4950-0022	06-4950-0023
特定非営利活動法人 東京高齢者就労福祉事業団	03-3951-7336	03-3951-7346	企業組合 宝塚高齢者雇用福祉事業団	0797-72-1296	0797-72-2920
センター事業団	03-6907-8030	03-6907-8031	企業組合ワーカーズコープ山口	0833-77-1966	0833-77-1964
センター事業団西日本本部	075-353-1070	075-353-1071	地域協同組合無茶々園	0894-89-5960	0894-89-5961
しあわせファクトリー	03-5382-3882	—	企業組合北九州・遠賀・ 中間・中高年事業団	093-293-5214	093-293-6787
日本高齢者生活協同組合連合会	03-6907-8043	03-6907-8041	ワーカーズコープタクシー福岡	092-935-0991	092-937-3491
労協・高齢協 関連社会福祉法人協議会	03-6907-8040	03-6907-8041	企業組合粕屋郡高齢者福祉事業団	092-938-2818	092-410-2820
企業組合コンピュータユニオン	03-5603-4572	03-5603-7265	大分自動車交通労働者協同組合	097-556-5050	097-556-6072
企業組合ユニオン建設労協	042-786-7388	042-786-7389			

センター事業団 全国事業本部所在地

	TEL	FAX		TEL	FAX
北海道事業本部	011-280-5225	011-280-5226	東京三多摩山梨事業本部	042-655-7366	042-622-6802
東北事業本部	022-398-4975	022-398-4973	神奈川事業本部	045-341-4192	045-260-5558
東関東事業本部	043-308-0620	043-308-0690	東海事業本部	052-222-3850	052-222-3851
北関東事業本部	048-844-0085	048-844-0086	北陸信越事業本部	025-384-8222	025-384-8224
東京統括本部	03-6907-8035	03-6907-8038	関西事業本部	075-353-1070	075-353-1071
東京北部事業本部	03-6907-8087	03-6907-8038	中四国事業本部	086-235-5755	086-235-5758
東京東部事業本部	03-6806-1567	03-6806-1568	九州沖縄事業本部	092-441-7587	092-441-8281
東京中央事業本部	03-5937-2632	03-5937-2652	西日本本部	075-353-1070	075-353-1071
東京南部事業本部	03-5767-6517	03-3768-1315			



日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会 JAPAN WORKERS' CO-OPERATIVE UNION

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル7階

電話 03-6907-8040

FAX 03-6907-8041

メール info@roukyou.gr.jp

ホームページ <http://www.roukyou.gr.jp>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

